

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26870083

研究課題名(和文)近代ロシア帝国の開発と中央アジア南部定住地域の社会変容 灌漑史の視点から

研究課題名(英文)Development Projects of the Russian Empire and Social Changes in the Sedentary Regions of Central Asia: An Analysis of Irrigation History

研究代表者

塩谷 哲史 (SHIOYA, Akifumi)

筑波大学・人文社会系・助教

研究者番号：30570197

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、帝政ロシア統治期(1867-1917年)の中央アジア南部定住地域における帝国政府内省庁、企業家、植民地当局といった様々な主体の間での開発をめぐる議論と実践が、同地域の現地政権・社会によって維持されてきた土地制度・水利慣行の実態となぜ乖離していたのかを明らかにしてきた。本研究は、アムダリヤのカスピ海への転流計画に代表される大規模灌漑計画が、各オアシス地域の特質を踏まえた土地改良事業に優先されていたことを明らかにし、そうした決定の背景にイギリスとの「グレートゲーム」に見られる対外的要因が働いていたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research aimed at analyzing the inconsistency existed between the development projects initiated by various entities such as ministries, entrepreneurs and colonial authorities of the Russian Empire, and the local practices of land use and water management in the southern Central Asian oases under the Imperial Russian rule (1867-1917). This study argued that the large-scale irrigation projects represented by the diversion of the Amu River to the Caspian Sea were given precedence over the land improvement project fitted with the environment of each oases area, decision making process of which was heavily effected by the external factor of Imperial colonial rule in Central Asia - "Great Game", that is a rally with Britain over Central Asia and its neighboring regions.

研究分野：中央ユーラシア史

キーワード：ヒヴァ・ハン国 ロシア帝国 グレートゲーム アムダリヤの転流計画 トルクメン 灌漑史 中央アジア近現代史

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、『中央アジア灌漑史序説』(風響社、2014年)において、19世紀から20世紀初頭にかけてのホラズムでは、遊牧集団が定住民との紐帯を失いオアシス内から徐々に排除されていくとともに、外部集団(帝政ロシア政府と企業家など)の利害が水資源に反映されることで、現地政権が人工灌漑網の管理能力を喪失していったと指摘した。そして今後の課題として、近年進展を見ているロシア帝国論研究に中央アジア社会特有の灌漑史の視点を取り入れ、灌漑事業に関与した多様な主体とそれらの間の関係から見えてくる新たな帝国論を構築すべきであると提案した。

### 2. 研究の目的

本研究は、これまで申請者が帝政ロシア進出前後(19-20世紀初頭)のホラズム地方の社会の存立に不可欠な灌漑の歴史的展開を軸に、その地域的特質を解明してきた研究成果を踏まえ、帝政ロシア統治期(1867-1917年)の中央アジア南部定住地域における帝国政府内省庁、企業家、植民地当局といった様々な主体の間での開発をめぐる議論と実践が、同地域の現地政権・社会によって維持されてきた土地制度・水利慣行の実態となぜ乖離していたのかを明らかにしてきた。さらに、その乖離を、帝国権力と現地社会という二項対立に収斂するのではなく、帝国内の様々な主体および主体間の関係が生み出したものとして捉えなおし、新たな近代ロシア帝国像の構築を試みた。

### 3. 研究の方法

本研究は、19世紀後半から20世紀初頭にかけて帝政ロシアの政府、企業家、植民地当局など様々な主体が、乾燥地域に位置する中央アジア南部定住地域において計画した灌漑開発と、現地の土地制度・水利慣行の実態との乖離の諸要因を分析することを通して、帝国権力と現地社会の二項対立論に収斂しない、新たな近代ロシア帝国像の構築を目指す。具体的には、開発の理念と実践、開発の背景をなす、おもに商業史の観点からのロシアと中央アジアの結びつきの変化、現地社会の土地・水利制度の実態を、ロシア、中央アジア各国の文書館での未公開文書(ロシア語、ペルシア語、テュルク語)の調査・分析を通して解明する。これら三つの取り組みに関して、年度ごとに国内外での学会報告、和文・英文での論文化によって成果公表を行うとともに、最終年度には研究課題名に即した単著の刊行によって、個々の取り組みの成果を統合する。

### 4. 研究成果

2014年度は4回、のべ1カ月半にわたり、ウズベキスタン共和国中央国立文書館、ロシア国立歴史文書館、同国公共図書館において、ロシア帝国の河川転流計画(アムダリヤのカスピ海への転流計画)に関する文書史料を閲覧、複写した。またロシア科学アカデミー東

洋写本研究所では、1870年代の村落調査の記録など中央アジア現地社会(ホラズム地方)の水利慣行に関する史料を閲覧、筆写した。調査時に収集した史料の分析を進めるとともに、1890年代ロシア帝国の地方統治機関・トルキスタン総督府による河川転流計画の追求がもたらした運河建設の現地社会への影響を論じた英語論文(“Povorot and the Khanate of Khiva: a new canal and the birth of ethnic conflict in the Khorazm oasis, 1870s-1890s,” *Central Asian Survey*, 33-2, pp. 232-245)を刊行し、また水利慣行に関する史料の紹介、および土地・水利制度と徴税・軍事制度との具体的な関係を検討する内容の国際学会報告を行った。これらの研究成果を通して、ロシア帝国の地方統治機関の開発計画と現地社会の水利慣行との齟齬がより具体的に明らかになったが、同帝国の中央政府の開発計画立案過程およびそれに対する地方統治機関内での議論の展開については次年度以降詳細な考察が必要となる。なお、本研究課題およびその基盤となった先行の研究課題(「ロシア進出前後の中央アジア社会に関する歴史地域学の試み」)の成果に対し、第4回地域研究コンソーシアム賞登竜賞および平成26年度筑波大学若手教員奨励賞を受賞した。

2015年度は、帝政末期ロシアのモスクワ、サンクト・ペテルブルグの企業家たちが立案した中央アジアでの灌漑計画に関する公刊、未公開の史料収集、およびそれらに対する帝政ロシア当局の関連史料の収集・検討を計画していたが、それはロシア(2回)およびウズベキスタン(1回)での調査によってその所期の目的を達成した。史資料収集を行ったのは、サンクト・ペテルブルグに所在するロシア国立歴史文書館(RGIA)、ロシア地理学協会(RGO)文書室、ロシア国民図書館(RNB)、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所(IVVRAN)およびウズベキスタン共和国タシュケント市に所在するウズベキスタン中央国立文書館(TsGARUZ)である。また前年度の史資料収集の成果として、18-19世紀のオレンブルグを基点としたロシア=中央アジア間の隊商交易の展開および取引の実態に関する報告を、2015年8月に幕張で開催されたICCEES(国際中東欧研究学会)において行った。それ以外にワークショップ等で4回(英語1回、日本語3回)の関連報告を行っている。さらに19世紀後半のアムダリヤ下流域における灌漑計画の失敗の背景に、当時のロシア帝国の対外関係、河川交通を重視する軍事戦略があったことを明らかにした論文を査読誌に投稿した。これらの成果を通じて、企業家の中央アジア進出の前提をなす18世紀以降のロシアと中央アジアの商業関係の全体像と特徴を把握することができた。

2016年度は、ロシアにおいて2回(4-5月、10-11月ののべ3週間)の文書館調査を実施し、おもに土地整理農業総局の諸部局(土地

改良局など)の諸文書の収集・分析を行った。また、ウズベキスタン(2016年9月)およびカザフスタン(2017年2月)に滞在した機会を利用し、ウズベキスタン共和国中央国立文書館等において関連史資料の収集を行った。研究成果の公表に関しては、2016年5月25日、嶺南大学(香港)において開催された国際ワークショップ「Empires of Water: Water Management and Politics in the Arid Regions of China, Central Eurasia and the Middle East (16th-20th centuries)」において、帝政末期ロシアで審議されたトルキスタンにおける水利権法の制定過程に関する研究報告「Toward Writing an Irrigation History of Modern Central Asia: An Analysis of the Deliberation Process behind the 1917 Water Law of Russian Turkistan」を実施したほか、6件の研究報告(うち国際学会報告2件)を行った。これらの研究報告のうち、19世紀のロシア=中央アジア間の商取引について、1851年露清間で締結された伊犁通商条約に反映されたロシアの中央アジア方面における外交、通商政策に関する関連論文を投稿中である。

2017年度には、ロシア、ウズベキスタン、ジョージアにおいてのべ1か月程度の文書館調査およびフィールド調査を実施した。収集した史料は、ロシア国立海軍文書館に所蔵されるアラル海艦隊、アムダリヤ艦隊に関連する文書、およびジョージア国立文書館に所蔵される、1860-1870年代コーカサス総督府が主導したアラル海=カスピ海間の地理、交通に関する調査の記録文書が中心である。また2018年1月には民族史、同年2月には都市史の観点から、帝国論および開発をめぐる議論に関する国際ワークショップを実施した。またこれらのワークショップの前提として、『歴史と地理—地理の研究』第196号に「中央アジア乾燥地域の都市と水資源—ヒヴァー」と題する小文を刊行し、議論を整理した。

本研究全体の成果出版物である英文単著は、現在 Palgrave Macmillan 社からの出版を目指して取り組んでいる。また今回の研究プロジェクトの実施期間中に、現地の土地制度や水利慣行に関する知識が、ソ連の公式イデオロギーに適合する部分のみ切り取られて整理されていることが明らかになった。今後18世紀から現在に至る実証的・網羅的な水利慣行に関する情報の整理が必要である。そのため2018年度からは、文献収集とフィールドワークによる口述資料の収集にもとづき現地社会における水利の在来知を分析する作業に重点を置く予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

塩谷哲史「1842年ガージャール朝使節団のヒヴァ派遣—シヤア派捕虜解放問題と英露両国の関与について—」『内陸アジア史研究』33、51-73頁、2018年3月、査読有。

塩谷哲史「中央アジア乾燥地域の都市と水資源—ヒヴァー—」『歴史と地理—地理の研究—』196、66-73頁、2017年4月、査読無・依頼有。

塩谷哲史「伊犁通商条約(1851年)の締結過程から見たロシア帝国の対清外交」『内陸アジア史研究』32、23-46頁、2017年3月、査読有。

塩谷哲史「ニコライ・コンスタンチノヴィチ大公のアムダリヤ転流計画—英露関係とトルクメン問題の文脈から—」『内陸アジア史研究』31、73-92頁、2016年3月、査読有。

塩谷哲史「回顧と展望—内陸アジア(二)—」『史學雑誌』124(5)、261-266頁、2015年5月、査読無・依頼有。

Onuma, Takahiro, Kawahara, Yayoi and Shioya, Akifumi, "An Encounter between the Qing Dynasty and Khoqand in 1759-1760: Central Asia in the Mid-Eighteenth Century," *Frontiers of History in China*, 9(3), pp. 384-408, October 2014, 査読有。

Shioya, Akifumi, "Povorot and the Khanate of Khiva: a new canal and the birth of ethnic conflict in the Khorazm oasis, 1870s-1890s," *Central Asian Survey*, 33(2), pp. 232-245, June 2014, 査読有。

[学会発表](計18件)

新免康、塩谷哲史「タシュケント在住の—ウイグル知識人の歴史的記憶—社会変動と越境—」(日本中央アジア学会2017年度年次大会) 2018年3月24日、KKR江ノ島ニュー向洋。

Shioya, Akifumi, "The Activities of the SPCA Program at the University of Tsukuba, Japan: History and Future Tasks," ("Ex Orient Lux"—第3回日本研究国際学会—), September 22, 2017, Russian-Armenian University, Yerevan, Armenia.

塩谷哲史「18-20世紀初頭の中央アジア—ロシア間の隊商交易—」(日本中央アジア学会2016年度年次大会) 2017年3月26日、KKR江ノ島ニュー向洋。

Shioya, Akifumi, "Area Studies and Central Asia," (International Workshop: Asian Powers,

Central Asia and the New Silk Road: Views from Inside and Outside), February 18, 2017, Kazakh National University, Almaty, Kazakhstan.

Shioya, Akifumi, "Reconsideration of the Treaty of Kulja (1851): Imperial Russian Diplomacy in a Eurasian Context," (Towards a Transcultural History of Diplomacy: A Core-to-Core Global History Collaborative Workshop), December 10, 2016, University of Tokyo, Japan.

塩谷哲史「ロシア帝国統治期トルキスタンにおける水資源管理—アムダリヤ下流域の事例から—」(第8回近代中央ユーラシア比較法制度史研究会) 2016年12月3日、京都外国語大学。

塩谷哲史「伊犁通商条約(1851年)の締結過程から見たロシア帝国の対清外交」(2016年度内陸アジア史学会大会) 2016年11月5日、駒澤大学。

塩谷哲史「中央アジア史研究の新たな地平—ラウザン運河からの眺め—」(中央アジア研究セミナー) 2016年6月23日、東京外国語大学。

Shioya, Akifumi, "Toward Writing an Irrigation History of Modern Central Asia: An Analysis of the Deliberation Process behind the 1917 Water Law of Russian Turkistan," (Empires of Water: Water Management and Politics in the Arid Regions of China, Central Eurasia and the Middle East (16th-20th centuries)), May 25, 2016, Lingnan University, Hong Kong.

塩谷哲史「近代中央アジアの灌漑史叙述に向けて—1917年ロシア領トルキスタンの水利権法審議過程の分析—」(研究ワークショップ「帝国と地域を結びつける水利政策」) 2016年3月25日、東北学院大学。

塩谷哲史「18-20世紀ロシア=中央アジア間の隊商交易とカザフの牧畜」(平成27年度東北アジア研究センター共同研究シンポジウム「モンゴルとカザフにおけるモノの域外流通と域内流通」) 2016年2月20日、東北大学。

塩谷哲史「中央ユーラシアの農牧接壌地帯からみた近代世界」(比較地域体系研究会) 2016年1月31日、明治大学。

Shioya, Akifumi, "Reading the Khivan Archive: A History of Water Management in Central Asia," (IMARES Workshop series), November 10, 2015, European University at St. Petersburg, Russia.

Shioya, Akifumi, "The Last Days of the Caravan: The Dynamics of Trade Between Orenburg and Central Asia in the Nineteenth Century," (The Ninth ICCEES World Congress), August 5, 2015, Kanda University of International Studies, Japan.

Shioya, Akifumi, "New Horizons in Central Asian History: Archival Sources and Environmental Studies," (Crossroads Asia Lecture), February 3, 2015, Center for Development Research (ZEF), University of Bonn, Germany.

Shioya, Akifumi, "'Traditional' Water Management System in Pre-Soviet Khorezm," (On Khorezmian Connectivity: Space, Mobility, Imagination), October 9, 2014, Institute of Iranian Studies, Austrian Academy of Sciences, Austria.

Shioya, Akifumi, "Water Conflict Resolution in Rural Central Asia: A Historical Perspective," (The 2nd International Conference on Arid Land Studies [ICAL2]), September 10, 2014, Samarkand State University, Uzbekistan.

Shioya, Akifumi, "Irrigation in Pre-Soviet Central Asia: A Survey on the Yasavulbashi Documents from Khiva," (Changing Patterns of Power in Historical and Modern Central and Inner Asia), August 8, 2014, Ulaanbaatar University, Mongolia.

〔図書〕(計2件)

塩谷哲史「オアシスと灌漑農耕—その歴史的変遷—」「首都タシュケントと地方都市—近代化への道程—」「帝政ロシアのアム川転流計画」帯谷知可編著『ウズベキスタンを知るための60章』23-27頁、37-41頁、47-50頁、明石書店、2018年5月。

塩谷哲史「ウズベク人—多様性と共存—」「トルクメン人—尚武の民—」「カラカルパク人—移住の歴史と豊かな口承文芸—」小松久男編著『テュルクを知るための61章』116-119頁、125-127頁、146-149頁、明石書店、2016年8月。

〔その他〕  
ホームページ等  
<http://www.trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000003151>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

塩谷哲史 (SHIOYA, Akifumi)  
筑波大学・人文社会系・助教  
研究者番号：30570197

